

第4学年 道徳学習指導案

令和元年10月2日（水）第5校時
 四万十市立東山小学校 4年1組20名
 授業者 中越 一宏

1. 主題名 きまりの大切さ

2. ねらいと教材

(1) ねらい

友だちの文也を思う気持ちと、時計係として規則を守る義務の間で揺れる義男の心を想像し、その後の行動について考えることを通して、きまりの意義を理解し、進んで守る道徳的判断力を高める。

(2) 教材名

『時計係』（廣済堂あかつき 小学生のどうとく 4）

3. 内容項目 規則の尊重〔中学年C・(11)〕

4. 主題設定の理由

(1) 指導内容

生活を営む上で必要な法やきまりを守ることは、人として当然のことである。しかし、状況によっては周りに流されたり、利己的な考えや友情を優先させてしまったりすることで、きまりを破ってしまう弱さが人間には潜在している。法やきまりが守られることによって社会の秩序は保たれ、集団における人間関係も維持されている。こうした法やきまりが存在する意義について考えることによって、それらは押しつけられたものでも縛るものでもないとして理解し、遵守していこうとする意欲につながっていくものとする。

(2) 児童について

本学級は20名の比較的少人数のクラスであり、友だちに穏やかに関わる児童が多い。以下は7月に行った道徳意識調査の結果である。

	質問項目	回答（人）				回答（％）	
		そう思う	そう思う 大体	そう思わない あまり	そう思わない	肯定	否定
1	道徳の勉強は、すきだ。	7	5	6	2	60	40
2	道徳のじゅぎょうでは、自分の考えを伝えたり、ほかの人の考えを聞いたりしながら、自分のことについてよく考えている。	7	9	4	0	80	20
3	家の人と道徳の話をしたり、「家庭で取り組む 高知の道徳」を読んだりしている。	4	4	5	7	40	60
4	自分には、よいところがあると思う。	10	8	2	0	90	10
5	がんばりたいことや目標をもっている。	15	4	1	0	95	5
6	人が困っているときは、進んで助けている。	9	8	3	0	85	15
7	いじめはどんな理由があっても、いけないことだと思う。	20	0	0	0	100	0
8	学校のきまりを守っている。	6	11	3	0	85	15
9	自分のすんでいる町や地いきのために何かしたいと思う。	9	8	3	0	85	15
10	自分のすんでいる町が好きだ。	14	5	0	1	95	5

「1. 道徳の勉強は、すきだ。」の項目で肯定的に回答した児童は60%に留まった。また、本主題に関わる事項である「8. 学校のきまりを守っている。」の項目では肯定的な回答が85%ではあるが、そのうちの11人が「だいたいそう思う」という回答であった。さらに、「2. 道徳のじゅぎょうでは、自分の考えを伝えたり、ほかの人の考えを聞いたりしながら、自分のことについてよく考えている。」の項目では80%の児童が肯定的に回答しているものの、道徳の授業や他教科においても、自分から積極的に発言できる児童は少ない。以上の結果から、道徳の授業に対して苦手意識を抱いている児童が多く、自分の考えを伝えたり、人の意見を聞いて考えたりすること、また、規則を守ることに課題が見られる。

4年生になると集団で活動する機会が増え、守らなければならないきまりやルールも多くなる。それらを守ろうとする気持ちはあるものの、「友だちが廊下を走っているから自分も一緒に走った。」「誰も見ていなければ守らなくてもよい。」というような甘い考えの児童も少なからず見られる。児童には、きまりはただ守ればよいということではなく、その意義を理解した上で確実に守ろうとする態度を育てていきたい。

(3) 教材について

本教材では、活発な性格で運動が得意な義男と運動があまり上手ではない文也の二人が登場する。二人は親友であり、年に一度のバスケットボール大会に向けて公園でよく練習していた。大会当日、時計係を任された義男が、試合終了間近に文也の活躍に見とれてしまう。1点を争う展開の中、文也が最後に放ったシュートによって文也のクラスが勝利する。文也は活躍をたたえられ自信をつけるのだが、その時にはすでに試合終了時間から10秒以上過ぎてしまっていた。義男はこのことを先生に告げるべきか黙っておくべきか自らのジャッジをめぐって葛藤する。オープンエンドの教材でありその後の展開が描かれていないため、正しいジャッジをすれば文也の勝利がむだになるというジレンマに苦しむ義男の気持ちを考え、ネームプレートやワークシートを活用して立場を明確にしながらか議論する活動を通して、きまりの意義を理解し、それを守ることの大切さについて深く考えられる教材である。

(4) 研究主題との関連

『 心豊かな子どもを育てる道徳教育の進め方 ～よりよい道徳授業を求めて～ 』

本校では『豊かで・かしこく・たくましく』を学校教育目標とし、知・徳・体それぞれの力の育成を目指している。道徳教育においても、

- ①道徳的価値の習得と道徳的実践力を涵養する。
- ②「生命尊重」や「規範意識」、「自尊感情」等の心情を大切にしている授業を行う。
- ③「挨拶で始まり 挨拶で終わる 東山小学校」の推進に努める。
- ④「東山小学校のあたり前」の推進に努め、行動かをめざす。

の4つを柱として日々実践を行っている。また、玄関横の掲示板に道徳コーナーを設け、道徳教育ハンドブック「家庭で取り組む 高知の道徳」の内容や、その月の児童会目標や行事に合わせた掲示を行い、児童へ道徳意識の啓発を行っている。

しかし、道徳教育における本学校の現状は、昨年度末に行った道徳意識調査の結果、「4. 自分にはよいところがある。」の項目で肯定評価が全校平均で87.96%、高学年になると61.6%と自己肯定感が低いことが課題となっている。心豊かな子どもを育てるためにはこの自己肯定感を高めていくことが重要である。

そこで、本時においても生徒指導の三機能を生かした授業づくりを行っていきたい。本時では、中心発問の際、ワークシートを用いる。児童はこのワークシートに義男がこの後どうしたと思うかを考えさせ、正直に告げるのか黙っておくのかの項目に○をつけて立場を明確にさせる。ここでしっかりと自己決定をさせたい。そうすることでそのように考えた理由も記入しやすくなるはずである。また、ペアで交流する機会を与えることで自己存在感を与えるだけでなく、共感的人間関係を育成していきたい。そうすることで『考え、議論する道徳』となり、心豊かな児童の育成につながるものと考えられる。

5. 学習指導過程

	学習活動	発問(○)と予想される児童の反応(・)	指導上の留意点
導入 5分	1. 本時の学習課題を知る。	○「(みんなの) きまり」には、どんなものがありますか。 ・廊下を走らない。 ・廊下は右側を歩く。 ・下校のルール。 ・チャイムを守る。	○生活上のきまりを想起させ、価値への方向付けを図る。
展開 30分	2. 教材を読む。 (1)文也の喜ぶ姿を見た義男の気持ちについて考える。 (2)義男のこの後の行動を予想し、その理由を話し合う。 ・個人思考 ・ペア ・全体 (3)きまり意義や守ることについて、その難しさと大切さの両面から考える。	○十秒以上過ぎて合図を出した義男は、文也の喜ぶ姿を見てどんなことを思ったでしょう。 ・文也がシュートを決めたことは嬉しいけど……。 ・文也が喜ぶ姿を見たら、とても言い出せない。 ・本当のことを言ったら文也はがっかりするだろうな。 ◎義男は終了時間が過ぎていたことを正直に先生に知らせるでしょうか。また、なぜそう思いますか。 〈知らせる〉 ・ルールは守らないといけない。 ・夢中になって時計を見ていなかった自分が悪い。 ・負けたチームに申し訳ない。 ・もやもやした気持ちが続くから。 〈知らせない〉 ・自分しか知らないから。 ・せっかく義男がシュートを決めたから。 ・文也が自信をもつチャンスだから。 ・三組のみんなから責められるかもしれないから。 ○守ることが難しくても、きまりが大切なのはどうしてでしょう。 ・きまりがなければ、自分勝手な判断が増えてしまい、楽しくスポーツができない。 ・きまりがあるからみんなが楽しく遊んだり過ごしたりできる。 ・小さな約束でも破ってしまったら困る人がある。	○場面絵を貼りながら教材を範読する。 (CDを利用) ○ワークシートに自身の考えに当てはまる方に○をさせ、その理由を記入させる。 ○黒板に名前カードを貼らせる。自分の立場を明らかにさせてから話し合わせる。 ○教材からの学びを基にきまりや約束の意義について考えさせる。 ○教材文だけでなく、自分たちの実生活を振り返りながら考えさせ、きまりを守ることの大切さについて考えさせる。

終 末 10 分	4. 自分を振り返り、これからの生活について考える。	<p>○今日の授業を通して感じたことや考えたことをノートに記入しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約束やきまりは大切だと改めて感じた。 ・どんなきまりも大切だと感じた。 ・自分がもし同じ場面に立った時には、正直に話したい。 	○別冊道徳ノートに記入させる。
-------------------	----------------------------	---	-----------------

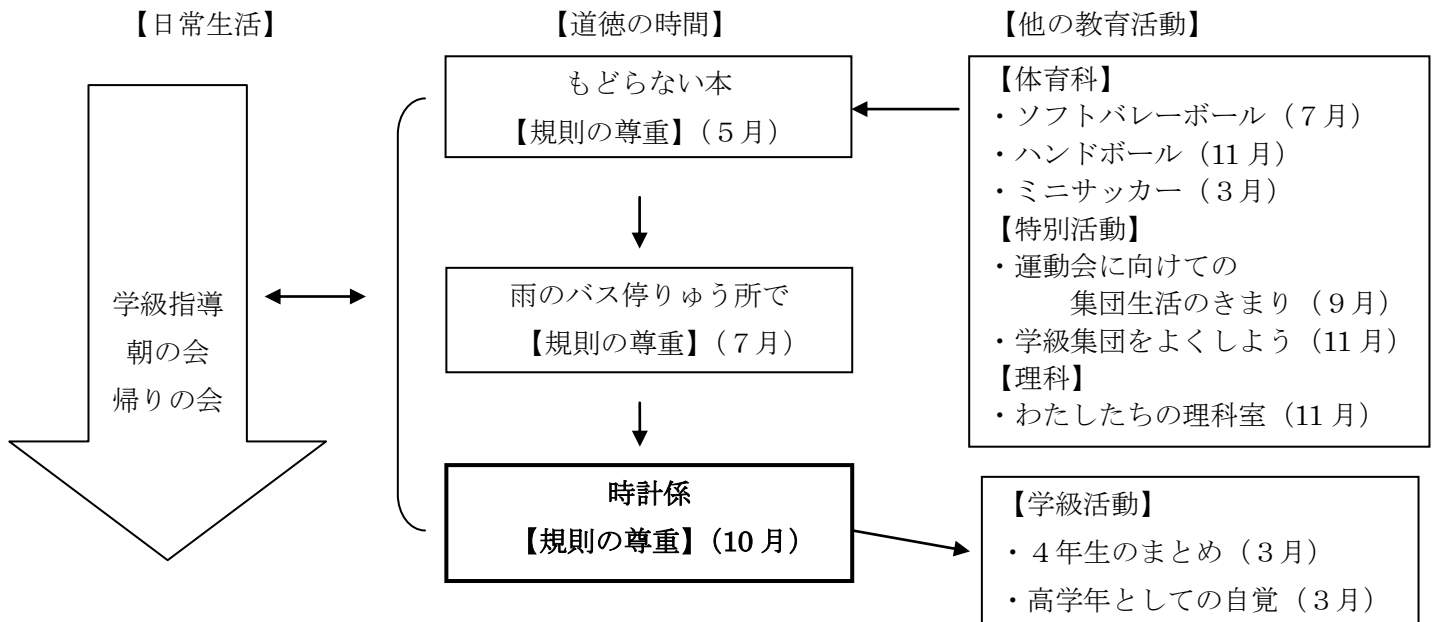
準備物 ワークシート・場面絵・CD

6. 評価（評価方法）

・義男の取るべき行動について話し合うことを通して、きまりを守ることの意義について自己との関わりで考えを深めている発言や記述が見られる。

（発言・観察（事後も継続）・ワークシート・道徳ノート）

7. 他の教育活動との関連



8. 板書計画

